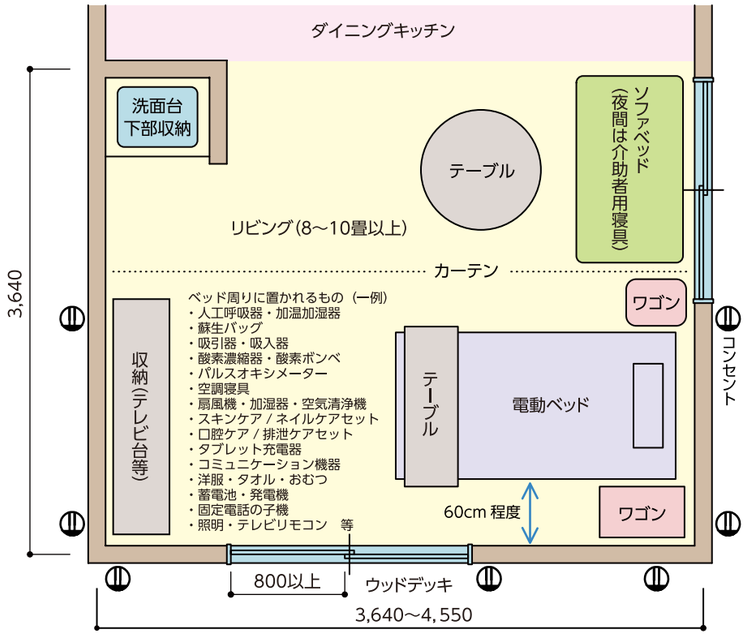
ベッド周りの家具配置等のレイアウト例

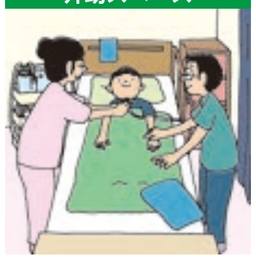
このレイアウト例は、これまで訪問したお宅の快適さや過ごしやすさにつながるさまざまな工夫を組み合わせてつくっています。
新築やリフォームの他、模様替えの時の参考になれば幸いです。
ぜひ「良いとこ取り」で活用してください。



ワゴン

吸引器やケア用品を集約したワゴンがあると小回りが効いて便利です。浴室や寝室への移動も楽になります。ワゴンの上から２段目や３段目は少し取り出しにくい場合があります。使いやすいものを選びましょう。

介助スペース



ベッドの両サイドにスペース（60cm程度）がとれていると介助はとてもやりやすいです。
介助者はひとりではなく、母親や父親、祖父母、看護師等多くの支援者が関われるようにしておくとよいでしょう。

カーテン

成長にともない適切な羞恥心を育み尊厳を守ることや、家族であっても異性への配慮のために人目を遮る工夫は必要です。ベッド周りのロールスクリーンやカーテン、パーテション等の配置は、プライバシーを守ることができ、安眠にも繋がります。

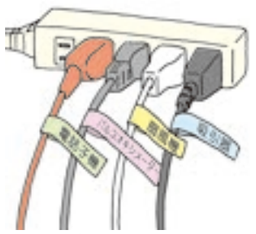
洗面台

新築やリフォームをおこなう場合は、ベッド周りに洗面台があると大変便利です。本人から目を離せない状況では、家族や支援者が器具を洗ったり、準備や片付けの際も洗面台からベッドまでの動線が短くなるので、安心に繋がります。

テーブル

家族や支援者が記録やメモを書いたり、一時的にケアグッズを置いたりするのに、ベッド周りにテーブル（オーバーヘッドテーブルやベッドサイドテーブル）があると便利です。キャスターで簡単に移動できるものを選ぶとよいでしょう。

電源コード



電源トラブルを回避するために電源コードの工夫（名称を書く・色分けをする）をしておくと安心です。エアコンや電子レンジ等を同時に使うとブレーカーが落ちる可能性があります。電気の契約アンペアは最低30 アンペア以上にしましょう。

照明・エアコン

ベッド上で過ごす時間が増えると、天井の照明のまぶしさやエアコンの風が気になります。お子さんからの訴えがなくても、直接ライトが見えない工夫やエアコンの風除けの設置等をしておくとよいでしょう。

季節感

毎日のケアはできる限り楽しく明るい気持ちでおこないたいものです。写真やイラスト、おもちゃ、工作等、季節を感じられるものがベッド周りにあると、支援者との話題がはずみ、お子さんやご家族の心の豊かさにも繋がると考えます。

協力者：浅野　美和（横浜市こども青少年局障害児福祉保健課・看護師）
井上亜日香（神奈川県立こども医療センター・看護師）
大泉　えり（在宅オフロ研究家・介護当事者）
小野　亜紀（都筑区医師会訪問看護ステーション・看護師）
加藤　桃子（横浜市総合リハビリテーションセンター・ソーシャルワーカー）
千葉かえで（横浜市総合リハビリテーションセンター・保健師）
中村　詩子（横浜市総合リハビリテーションセンター・リハエンジニア）
野口　祐子（日本工業大学建築学部・教授）
白田　海斗（日本工業大学建築学部・学生）
星野　陸夫（神奈川県立こども医療センター・医師）
宮副　和歩（全国医療的ケアライン（アイライン）・代表）
山下　容子（ＮＰＯ法人扉・看護師）
山西　紀恵（南区医師会訪問看護ステーション・看護師）
（一社）にじの家の皆さま、Ｗ・Ｊさん他 17 名の皆さま

参考文献：
・医療機器が必要な子どものための災害対策マニュアル、国立研究開発法人国立成育医療研究センター、2019
・医療的ケアってなんだろう（第２版）、横浜市、2021
・不安を軽く！みんなで楽しむ医ケア生活、長野県立こども病院、2021

企画・作成：横浜市総合リハビリテーションセンター研究開発課　西村　顕（一級建築士・工学博士）

このパンフレットで使用しているイラストの無断転載・無断複製はご遠慮ください。イラスト／堀江篤史

発行／一般財団法人 保健福祉広報協会　2022 年 10 月

国際福祉機器展（H.C.R.）2022

医療的ケアが必要な子どものベッド周りの工夫

このパンフレットは、医療的ケアが必要なお子さんとそのご家族の心豊かな暮らしの実現に向けて、住まいの基本的なポイントやアイデア、ベッド周りの工夫を整理し、提案しています。

アイデアや工夫で生活を豊かにしよう

安全で機能的なベッド周りの環境整備は、お子さんやご家族の豊かな暮らしに繋がると考えます。医療的ケアを効率的におこなうことができれば、お子さんもご家族もストレスなく過ごし、空いた時間を遊ぶ時間等に充てることもできます。

また、医療機器を移動しやすい配置にしておくことで、お出かけも気軽に楽しめるようになります。
一方、お子さんとの時間の余裕も必要ですが、介助者自身のための時間を捻出することは、同様に大切なことだと思います。

ベッド周りの環境整備や模様替えのタイミング

【退院時】
オムツ交換、入浴介助、食事の準備等、退院後は時間に追われ忙しくなります。医療的ケアにも慣れない状況の中で、慌ててベッド周りの環境整備を充実する必要はありません。
退院指導時に習った最低限の方法で大丈夫です。無理をしないこと。まずはお子さんとの生活に慣れましょう。

【慣れてきた頃】
お子さんとの生活にも慣れ、将来の見通しを持てるようになってきたら、今のベッド周りの環境を見直してもよいかもしれません。
SNSの情報や100円ショップの商品を組み合わせたりする等、少しの工夫でケアが効率的になり、便利になるかもしれません。

【様々な環境変化】
きょうだい児の進学、家族の転勤転職、転居、新築やリフォーム等、今後は様々な環境変化が起こる可能性があります。このような身の回りの環境変化をきっかけに、ベッド周りの模様替えにチャレンジしてもよいかもしれません。トライを繰り返しスモールステップで楽しみましょう。

ベッド周りの環境整備や模様替えのタイミングは人それぞれ
皆さん、いろいろなタイミングで少しずつカスタマイズしています。
病院ではなく自宅でおこなうケアは、家族の日々の暮らしに馴染んでいくことがベストだと思います。
必ずしも機能面を重視するだけではなく、好みのデザインや手作りのものを使っても大丈夫です。
訪問看護師等の医療スタッフのスキルとノウハウを参考に、いろいろ試しながら一緒につくりあげていくとよいでしょう。

在宅生活のキーワード

安全

医療機器にはそもそも高い安全基準が設けられています。医療スタッフの指示通りにケアをしましょう。機器の不具合やトラブル時の対応は必ず事業者に連絡してください。

簡単

医療機器の取り扱いやケアの方法は、両親がマスターするだけではなく看護師や学校の先生（訪問指導の場合）も関わることを想定して、手順やレイアウト等を分かりやすくしておきましょう。

時短
（時間短縮）

ケアの時間短縮（時短）は、お子さんとの楽しい時間を過ごすことや、自分自身の時間の確保のためにとても大切です。経験豊富な医療スタッフに相談しながら工夫してみましょう。

「安全」「簡単」「時短」を目指そう

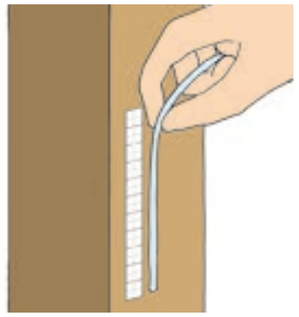
人工呼吸器、吸引器、吸入器、酸素濃縮器、パルスオキシメーター等、ベッド周りにはたくさんの医療機器が配置されます（お子さんの状況によります）。
ここでは、たんの吸引と経管栄養に関する医療的ケアのアイデアや工夫の一例を紹介します。

これらのアイデアや工夫は誰にでも当てはまるものではありません。
「安全」「簡単」「時短」をキーワードにいろいろ試しながら楽しむことが大切だと思います。

たんの吸引

たんの吸引は利用頻度が多く、医薬品や診療材料（吸引チューブ等）を組み合わせて使うことになり、ケアの手順等が煩雑になります。吸引器はご家族だけではなく、医療スタッフにも使いやすい設定や配置にしておきましょう。

吸引チューブの長さを測るためのマスキングテープ（目盛付き）。吸入器に直接貼っておくと、吸引の場所が変わっても簡単にチューブの長さを測れます。



テープを縦に貼ると吸引チューブ先端が物に触れにくいのでより衛生的です。動線上の壁や柱の見やすい位置に貼るとケアの動きがスムーズになります。

吸引チューブは毎日新しいものに交換します。一時置き場は、元の袋に戻す方法もあります。例えばラップ芯を活用する工夫は簡単です。

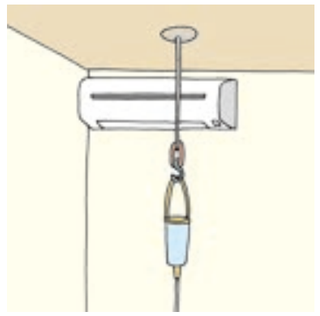
一時置き場にプラスティックの容器を使い、フタ部分に歯ブラシのフックを貼り付けると、取り出しやすく外出時も便利です。100円ショップで購入できます。

吸引器の操作をリモコンに変更することもできます。吸引器に近づかなくても操作ができるので、ケアの時短と介助者の腰痛予防対策として有効です。

経管栄養

イルリガートルボトル（注入ボトル）は胃や腸よりも高い位置に置く必要があります。よく見られるのは、カーテンレールにS字フックを付けて、そこに注入ボトルを引っ掛ける方法です。その他に、家族と一緒にダイニングで注入をしたり、他の場所でも注入ができる工夫があると便利です。

注入ボトルを引っ掛けるために、キャンプ用のランタンスタンドを使う方法もあります。移動ができ、家のどこにいても手軽に注入ができます。



室内の物干しポールを注入時に使う方法もあります（後から設置する場合は天井工事が必要です）。床のスペースが広く使えるので便利です。